

# 2024年度 / 2023年度事業案内

## 川崎いのちの電話

### ひとりでも多くの悩める心に寄り添うために

高度経済成長期に中核工業都市として栄えた川崎市。中高年層の自殺率ワーストの不名誉な汚名脱却を目指して、川崎いのちの電話は1986年12月に全国27番目のいのちの電話として開局。以来、数多くの善良な市民、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、国際ソロプチミスト、川崎商工会議所などのボランティア団体、そして歴代川崎市長、行政当局者の支援をいただき、電話相談員や運営に携わる全会員が365日24時間体制で電話相談活動を続けております。

相談員ボランティアは1年半の養成研修を経て認定され、その後も研修を重ね、普通の一市民がゲートキーパー・いのちの門番として、悩める相談者の心に寄り添い、ともに悩み考え解決の道を探るべく努力しています。

いのちの電話相談は、孤独や苦悩、絶望感にさいなまれている人たち、とくに自殺の危険性のある人たちすべてに開かれています。悩んでいる人が現在の状況を正しく把握し、再びやり直す力が自分にあると気づくことが援助の最大目標です。いのちの電話の“いのち”は相談員にはかきません。

ところが近年の超高齢化社会の進展で老老介護あるいは高齢者雇用、夫婦共働きなどでボランティア不足の時代になり、相談員の人数が川崎のみならず全国的に不足の傾向にあります。コロナ以後、自殺率は衰えるどころか漸増の気配であり、10倍ともいわれる未遂者まで数えるとこれから先が心配になります。

自殺者を出さない、住み心地のよいまち、明るく健康な社会づくりを目指し、引き続き活動を続けてまいります。川崎市制100周年を迎え、今後も川崎いのちの電話に対して一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人 川崎いのちの電話  
理事長 金子圭賢

### 2024年度事業(活動)計画

1. これまでの3年間はコロナ禍で活動が制約を受けてきたが、2024年度から通常の活動に戻ることになる。最も制約を受けてきた相談ボランティア募集(第39期)は、公開講座(2月)でスタート→養成研修申込み→面接・適性テスト→人間関係基礎訓練→電話モデル学習→電話実習→インターン研修を経て、2025年8月下旬に相談員として認定の予定。
2. “24時間365日”休むことのない相談電話を堅持し、1本でも多くの電話を受け、つながりやすい川崎いのちの電話を目指す。
3. 安定した収入源を持たないので、みなさんからの寄付が活動の支えとなっている。そのおかげで2023年度は530万円の予算を上回る693万円を達成、24年度は550万円を目標にした。新たな寄付先を開拓する。

- 傾聴の深化、新しい相談内容への対応について、相談員のグループごとの研修、相談員全員を対象にした研修に取り組む。
- 社会の変化、複雑化に対応できるよう、研修プログラムを充実して相談員の養成と資質の向上を進める。
- 研修を担う人材の確保と資質の向上を図る。
- 市民サークルや学校・企業・団体が行う自殺予防や傾聴などの講座に講師を派遣する。
- 市民への感謝と活動資金を得るために、実施しているチャリティイベントは、クラシックの第一線で活躍するトリオリベルタ konsern によるコンサートを10月に実施する。会場は、改修工事が終わったエポックなかはら(川崎市中原区)に戻す。恒例の柳家三三が出演する落語会は2025年6月の予定。
- 広報誌「川崎いのちの電話」を年3回発行(7月1日 11月1日 3月1日)する。特集記事を中心に、いのちの電話の活動を広く知ってもらう内容を掲載する。
- インターネットによる相談を充実する。ネット相談員を増やし、ネット相談の増加に対応する。
- 自死遺族ほっとラインの実施。毎月第2・第4木曜日12時から16時まで。  
専用電話:044-966-9951
- 川崎市と共催で「こころの健康セミナー」(8月9日開催)

## 2023年度事業報告

### ○評議員会

#### 第1回評議員会

- 2023年6月14日開催。評議員10名のうち9名が出席。議長に北條秀衛評議員を選任。金子圭賢理事長と小杉千弦業務執行理事・事務局長が陪席。
- 議案①2022年度事業報告②2022年度収支決算③任期満了に伴う役員(理事・監事)の選任。事業報告、収支決算を承認。小杉千弦業務執行理事・事務局長が退任、後任に有田茂参与が選任された。そのほかの6名の理事、監事2名を再任。新参与に瀧野修元事務局長を選任。

#### 第2回評議員会

- 2024年3月29日開催。評議員10名のうち7名が出席。議長に伊藤初美評議員を選任。金子圭賢理事長と有田茂業務執行理事・事務局長が陪席。
- 議案①2024年度事業計画②2024年度予算。2件について全員一致で可決された。

### ○理事会

#### 第1回理事会

- 2023年5月29日開催。理事7名と監事1名、顧問1名、参与1名が出席。
- 議案①2022年度事業報告②2022年度収支決算③評議員会招集通知。事業報告と収支決算については、出席理事全員が賛成し可決。

#### 第2回理事会

- 2023年6月18日開催。理事5名と監事1名、顧問2名、参与1名が出席。評議員会で承認された理事の中から金子圭賢理事長と有田茂業務執行理事に選任。顧問に阿部孝夫と近藤八千代を再任、参与に瀧野修を選任。

### ○運営会議

2カ月に1回・奇数月に開催。理事長、研修担当者会、相談員委員会、事業推進委員会(企画部、広報部、製作部)、財務委員会、インターネット相談委員会の代表、事務局長で構成。全体に関わる問題・課題のほか、各部門の活動報告、活動予定を受けて、連絡、調整を図る。

### ○相談員委員会

毎月1回開催。相談員で構成する15の継続研修グループの代表で構成、電話相談活動の問題・課題を話し合う。

### ○研修担当者会

初期研修部、継続研修部、担当者研修部の3つの部と特別研修委員会で構成。相談ボランティア応募者の研修、相談員の継続研修、相談員のリフレッシュ研修、スキルアップ研修、外部研修に講師派遣などを行う。

- 相談員のリフレッシュ研修・24年2月24日:46名が参加。①プレイバックシアター=白坂和美講師・ゲシュタルトネットワーク関西代表②アサーション=若杉肇講師・日本精神技術研究所アサーショントレーナー③フォーカシング=阿部利恵講師・国際フォーカシング研究所認定トレーナー
- 講師の派遣。①川崎市立田島支援学校「傾聴講座」、23年6月②川崎市社会福祉協議会「ゲートキーパー講座」、23年10月31日③狛江電話訪問はとの会、24年2月28日

### ○財務委員会

活動資金として不可欠な寄付金の増額策を検討し、実行に移している。川崎いのちの電話の設立には川崎市のライオンズクラブが大きく関わっており、寄付についてもライオンズクラブのウエイトが高くなっている。一方で、ライオンズクラブ以外の寄付を増やす方を委員会で検討している。

寄付をお願いするチラシ「あなたのご支援が誰かの生きる力になります。応援してください」の改訂を検討している。

### ○企画部

- 山形由美&中鉢聡コンサート 2023年11月18日13時から麻生市民館で開催
  - 柳家三三独演会 2024年3月16日13時30分から麻生市民館で開催
- 収益は、(福)川崎いのちの電話の活動費として活用。

### ○広報部

広報誌「川崎いのちの電話」を年3回発行

- 108号(2023年7月1日発行)  
特集:「じいじいず」の“給料”は子どもの笑顔 店主 宮田明
- 109号(2023年11月1日発行)  
特集「弱さでつながる～失敗は成功へのプロセス～」  
ホッとスペース中原 佐々木炎・福正大輔
- 110号(2024年3月1日発行)  
特集「今日を生きる君へ 共に生きよう」 早稲田大学大学院生 清水美好

### ○製作部、新ゆり製作部

チャリティーコンサートや落語会のほか外部の催し物で手作り品を販売している。収益は(福)川崎いのちの電話の活動費として活用。

### ○ネット相談委員会

ネット相談員の増員に取り組み、2024年1月から2名増えた。増員によって返信件数を増やす。相談者の気持ちに応える返信技量の向上を図っている。

## ○第39期相談ボランティア募集

▽相談員の希望者は、3回の公開講座(24年2月に実施のうち1回以上受講することが必須)

第1回:「大切な人を自殺から守るために」

講師 張賢徳・帝京大学溝口病院精神科客員教授

第2回:「聴く力～人をいやすもの」

講師 渡邊啓二・心と生活の相談室シャローム室長

第3回:「弱さを認めない社会と生きにくさ」

講師:引土絵未・日本女子大学人間社会学部福祉学科専任講師

オンライン参加も含めて計239人が受講



▽相談員養成研修申込み(3月15日締切)

応募資格:①公開講座を1回以上受講

②年齢23歳以上

③心身の健康を有する方

提出書類:①研修申込書 写真添付

②作文 自分の人格形成に影響を受けた人物、主な出来事などを中心に自己形成の歴史を綴る。原稿用紙400字×10枚

研修期間:2024年5月から2025年8月まで

研修過程:面接・適性テスト→人間関係基礎訓練→電話モデル学習→電話実習→インターン研修→認定

## ○実働相談員の推移(2018年度～2023年度)

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
人数	143	115	117	110	124	125

## ○いのちの電話相談員全国研修会・ふくしま大会

開催日:2023年10月26日～28日 会場:福島県郡山市ホテルハマツなど

コロナ禍の影響で、全国研修会は4年ぶりの開催。参加者は全国48センターから507人。川崎センターからは24人が参加、開催地福島に次いで2番目に多い参加だった。

福島県は2011年におきた東日本大震災で大きな影響を受け、12年を経た福島の復興・再生、福島の光と影を全国の相談員に感じてほしいと、大会のテーマを「ラポール・絆を結ぶ～共に考える。ふくしまの光と影～」とした。

分科会・ワークショップは、災害と心のケア、相談員のケア、社会的支援のあり方など7つ。震災・原発事故現地研修は貸し切りバスで被害の大きかった川内村、富岡町などを回った。定員90人だったが希望者が140人を超え、希望者全員を受け入れた。

川崎センターでは全国研修終了後、参加者に感想文を書いてもらい、冊子としてまとめた。

## ○全国電話相談員オンライン交流会

2024年2月2日18時～20時。テーマは「ホンネで語ろう」

5人のグループで、所属するセンターの様子やボランティアとしての充実感や悩みなどを話し合った。川崎からは5名が参加。



## ○自死遺族ほっとライン

2009年9月に川崎市が自死遺族ほっとラインを設置。相談員は川崎いのちの電話が協力した。2012年4月から、川崎いのちの電話が業務を委託された。毎月第2・第4木曜日、12時から16時まで。

2024年3月10日に自死遺族支援研修会を開催。田中幸子さん(全国自死遺族連絡会代表理事)と杉山春さん(ルポライター)の講演を聞いた。

## ○こころの健康セミナー

こころの健康セミナーは2010年度から、川崎市と川崎いのちの電話の共催で開始。自殺やメンタルヘルスなどに関連した知識の普及や市民の理解促進が目的。

2023年10月14日、「災害とメンタルヘルス～知ることからはじめる備えの一步」をテーマに開かれた。第1部では、福地成・東北医科大学病院精神科病院准教授が「災害時におけるストレスとその影響」と題して講演、第2部のシンポジウムは「被災地を通して見えたもの、感じたもの」をテーマに、福地氏に加えて大橋博樹・多摩ファミリークリニック院長、津田多佳子・川崎市職員が話し合った。参加者90名。

## 外部の会議への参加

### ○川崎市自殺対策推進・地域連絡会議

2023年9月5日開催。会議では①第4次川崎市自殺対策総合推進計画素案②若年層の自殺対策「川崎市SOSの出し方・受け止め方教育の取り組みについて」について、討議。委員は帝京大学医学部附属溝口病院、神奈川県弁護士会、川崎市医師会、

川崎商工会議所、川崎市社会福祉協議会、川崎市立中学校長会、川崎いのちの電話、川崎市健康福祉局など8分野、17名の委員が出席。川崎いのちの電話からは、深瀬正子研修担当者会副代表が出席した。

自殺対策推進・地域連絡会議は、自殺対策に関する事項について情報交換・連絡調整・意見収集等に取組んでいる。

○川崎市青少年の健全な育成環境推進協議会

○神奈川県犯罪被害者支援会議

## 2023年の相談電話件数は1万2791件、前年比754件増

川崎いのちの電話の2023年(1~12月)の相談電話件数は1万2791件で、前年比754件増えた。自殺志向の電話は8.6%。コロナ禍が始まった20年は1万1千件台に減り、21年から1万2千件台となっている。男性からの電話は6378件で前年比838件増、女性は6300件で197件減。年齢別では50代が23%で全体の4分の1近くを占め、次いで40代19.8%、60代15.2%、30代14%。内容別では「人生」が23.2%と20%を超えた。「精神」14.8%、「家族」13.7%、「対人」11.4%と続く。

相談電話件数の推移

年	2019	2020	2021	2022	2023
件数	14,866	11,002	12,228	12,037	12,791

## 全国49のいのちの電話の合計受信数

55万7952件、前年より1万3737件増えた。自殺傾向は11.8%。

全国49センターの相談電話件数の推移

年	2019	2020	2021	2022	2023
件数	610,372	520,754	526,281	544,215	557,952

## 2023年全国の自殺者数ー厚労省調べ

2023年の自殺者数は2万1837人で、前年比44人減った。男性が1万4862人で2年連続増加、女性は6975人で4年ぶりに減少。男性の自殺者は女性の約2.1倍。年齢別自殺死亡率で最も上昇したのは30歳代で、0.7ポイント上昇。

## インターネット相談

みんなのネット相談・2023年件数

(埼玉・東京・川崎・新潟・仙台・奈良の6センターが参加)

2023年1~12月の返信件数は1659件。22年に比べて119件減。自殺志向の割合は36.5%と電話に比べると約4倍高くなっている。

相談は女性が59.8%、男性30%、非開示10.2%。年代別では30代が24.8%、60代23.5%、40代22.1%。項目別では「人生」が43.9%と半分近く、「保健・医療」17.3%、「対人関係」12.2%、「家族」11.3%と続く。

●2020年~2023年の相談件数

インターネット相談件数の推移

年	2020	2021	2022	2023
件数	1,362	1,448	1,778	1,659

## ○コロナ禍を振り返って

### \*電話相談活動

政府は2020年4月7日、神奈川県など7都府県に緊急事態宣言を行った。これを受けて、川崎いのちの電話は4月8日から5月6日まで活動を休止。いのちの電話の公共性、必要性を考え、5月7日から活動を再開した。5月は相談員の担当回数を月1回に制限、順次緩和していった。

### \*コロナ感染対策

入退室時の手指の消毒。使用する受話器、鉛筆などの消毒を徹底。窓を開けるなど部屋の換気。リモートで研修、会議などを実施。

### \*相談ボランティアの募集

●研修中だった34期生の研修を4月に中断、6月に再開して11月に15人を相談員として認定した。

●2021年に入って感染が再拡大。35期相談員の募集では、相談員養成研修の面接段階で研修を中止し、35期の相談員は誕生しなかった。

●36期の相談員養成研修は公開講座を中止。面接で養成研修者を選び、中断をはさみながら23年3月に相談員を認定。

●37期は36期と同じく公開講座を中止、面接を経て研修を始め、23年11月に相談員として認定。

●38期は23年8月から研修を始め、24年12月認定予定。

●39期はコロナ禍前の研修体制に戻り、2024年4月から研修を始め2025年8月に認定の予定。

### \*その他

●20年3月の落語会、同10月のチャリティーコンサートを中止。21年3月の落語会は定員を半分にして開催。

# 2023年度決算

## 貸借対照表

2024年3月31日現在

単位：円

資産の部	
科目	金額
流動資産	29,173,421
現金預金	28,328,159
現金	21,277
事業推進部現金	513,038
普通預金	6,141,366
貯蓄預金	3,577,032
郵便振替口座	3,075,021
定期預金	15,000,425
事業未収金	696,593
前払費用	148,669
固定資産	109,304,804
基本財産	100,000,000
土地	22,000,000
基本財産特定預金	20,000,000
建物	58,000,000
減価償却累計額(建物)	△ 13,050,000
減価償却積立預金	13,050,000
その他固定資産	9,304,804
資産の部合計	138,478,225

負債の部	
科目	金額
流動負債	408,085
事業未払金	265,998
預り金	142,087
負債の部合計	408,085

純資産の部	
科目	金額
基本金	100,000,000
国庫補助金等特別積立金	30,767,660
その他積立金	0
次期繰越活動増減差額	7,302,480
(うち当期活動増減差額)	670,609
純資産の部合計	138,070,140

負債及び純資産の部合計	138,478,225
-------------	-------------

## 資金収支計算書

自2023年4月1日至2024年3月31日

単位：円

科目		決算
事業活動による収支		
収入	相談事業収入	9,019,840
	経常経費寄附金収入	6,931,413
	事業推進部収入	3,029,097
	受取利息配当金収入	2,075
	その他の収入	0
事業活動収入計(1)		18,982,425
支出	人件費支出	7,181,100
	事業費支出	6,096,728
	事務費支出	3,617,650
事業活動支出計(2)		16,895,478
事業活動資金収支差額(3) = (1) - (2)		2,086,947
施設整備等による収支		
収入計(4)	施設整備等補助金収入	1,490,000
支出計(5)	固定資産取得支出	1,999,580
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)		△ 509,580
その他の活動による収支		
収入計(7)	-	0
支出計(8)	減価償却積立預金積立支出	1,160,000
その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)		△ 1,160,000
予備費支出(10)		-
当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)		417,367
前期末支払資金残高(12)		28,347,969
当期末支払資金残高(11) + (12)		28,765,336

## 事業活動計算書

自2023年4月1日至2024年3月31日

単位：円

収益の部	
科目	金額
相談事業	9,019,840
育成事業	847,000
受託事業	2,483,240
その他事業	5,689,600
川崎市補助金	5,189,600
神奈川県助成金	500,000
経常経費寄付	6,931,413
経常経費寄付金	4,537,413
会員会費収入	2,394,000
賛助会員寄付	2,080,000
維持会員寄付	314,000
事業推進部収入	3,029,097
企画部収入	2,617,367
製作部収入	411,730
その他収入	0
収益合計(1)	18,980,350

費用の部	
科目	金額
人件費	7,181,100
事業費	6,096,728
企画部支出	2,017,829
製作部支出	230,473
委員会費	600,265
広報費	453,900
受託事業支出	583,000
教育指導費	1,029,076
その他支出	1,182,185
事務費支出	3,617,650
事務消耗品	142,933
水道光熱費	570,089
通信運搬費	905,634
IT設備費	79,430
その他支出	1,919,564
減価償却費	2,110,584
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 694,246
費用合計(2)	18,311,816

サービス活動増減差額(1)-(2)	668,534
-------------------	---------

# 2024年度予算案

単位：円

収益の部	
科目	金額
相談事業	9,919,600
育成事業	1,830,000
受託事業	1,920,000
その他事業	6,169,600
川崎市補助金	5,189,600
神奈川県助成金	500,000
共同募金配分金	480,000
経常経費寄付	5,500,000
経常経費寄付金	2,700,000
会員会費収入	2,800,000
賛助会員寄付	2,500,000
維持会員寄付	300,000
事業推進部収入	1,950,000
企画部収入	1,500,000
製作部収入	450,000
その他収入	55,000
収益合計(1)	17,424,600

費用の部	
科目	金額
人件費	7,000,000
事業費	5,877,000
企画部支出	873,000
製作部支出	125,000
委員会費	650,000
広報費	450,000
受託事業支出	1,159,000
教育指導費	1,400,000
その他支出	1,220,000
事務費支出	3,387,600
事務消耗品	150,000
水道光熱費	550,000
通信運搬費	700,000
IT設備費	100,000
その他支出	1,887,600
減価償却積立資産支出	1,160,000
費用合計(2)	17,424,600

サービス活動増減差額(1)-(2)	0
-------------------	---

### <役員>

評議員	市川 功一	千田 智子	北條 秀衛	理事 金子 圭賢	監事 関口 賢次	増山 雅久	参与 瀧野 修
	松原 成文	伊藤 初美	堂本 典希	理事 安達 成功	顧問 阿部 孝夫	近藤 八千代	
	西村 恭仁子	山本 直正	山田 美和子	安達 成功	鈴木 清		
	吉田 伸一			張 賢徳	有田 茂 (業務執行理事・事務局長)		

<任期は2025年6月まで>

# 寄付感謝

2023年度は次の方々、法人・団体の皆さんから温かい寄付をいただきました。感謝してご報告します。

## 《個人》

柴田 頼子	鈴木 清	高木 弘美	早崎 悦子	梶田みどり	山本 苑子	深瀬 正子	片山世紀雄	金子 圭賢
小島 良子	岡安 敬夫	今野タネ子	三辺 淳子	金井 勉	鈴木 裕子	高村 真	小松 智子	大石 眞理
近藤百合江	尾根 恒	岩田 良子	関 聖一	金子 顕	米山 信二	横川 桂子	秋場 静	境田 眞由美
関口 賢次	加藤 紹大	山田美和子	山本 直正	瀧野 修	二村 清美	鈴木 恵子	安田 享二	安達 成功
高橋 勉	河合 束	吉田 久弘	立木 郁子	村上カズコ	粟井 清	佐藤美津子	橋本 由子	伊藤 素美
安藤 健雄	粕山 勝雄	牧野 洋久	北條 秀衛	大塚ふみ子	藤嶋とみ子	富田美津子	中由 光徳	坂本 治子
石井 秋雄	西村 治人	河合 眞	松本 純子	中島 泰己	小林美年子	中山 厚夫	松島 太郎	磯江 明美
山口 洋江	山鹿 文子	渡邊 新治	井上美千代	長塚いつ子	濱田 徹	伊藤 初美	磯部 尚哉	内田 喜康
大鋸 甚勇	関口 晴雄	岡田 修二	平島 親	斉藤加奈子	武田 信平	笠原 光子	粟澤由利子	近藤八千代
松村 英子	手塚 豊子	長掛 栄一	佐々木陽子	河本 裕子	碓井 俊昭	森瀬 大蔵	矢田部光江	田中 好子
仲村アサ子	竹内 成治	山田 長満	杉浦 初子	片山世紀雄	阿部 孝夫	余湖はれみ	松尾 信子	白井香代子
木澤 静雄	市川 功一	山口 恒太	石原 敏光	大川 幸男	田中 康夫	藤 雅文	松岡 光子	三國 祥子
井田 光政	広島 晴美	岡本由利子	藤岡 勝	山岡 道夫	高梨 斉	太幡世記子	山本 剛	中里 君江
松久 順子	鈴木 早苗	島崎 祥子	林 茂	小出 慶一	吉田 伸一	秦 ひろみ	伊佐 良夫	宮坂 源一
森山 定雄	藤野 竹子	田中 勇人	菅沼 雪絵	奥 秀子	亀岡 大造	中川 隆	坂尾 宜徳	肥塚 由美
田中 勝利	碓井 正之	稲生美佐子	渡邊洋太郎	久保田洋子	瀬森 尚	漆原 澤	浅田 美子	松嶋 邦生
古橋 和好	稲葉 武	西田喜久子	塩島えり子	小松 終子	内田 三枝	澤 洋子	櫻井 貴裕	久保美矢子
羽倉のり子	糸 なつえ	佐藤恵美子	小林 直人	立川 典子	大石 幸生	梶川 明美	匿名希望17名	

## 《法人・団体》

ライオンズクラブ国際協会330B地区4R	(株)由貴工務店	(株)アップ総合企画	(有)太平商事
石原工業(株)	高津区鎮座白髭神社	川崎多摩川ライオンズクラブ	ライオンズクラブ国際協会330B地区4R-1Z
四つ葉グローバルクラブ	川崎橋ライオンズクラブ	(株)多摩設計	川崎生田ライオンズクラブ
(有)坂本木工所	堂本製菓(株)	(株)アドバンスホーム	(有)小林総業
国際ソロプチミスト川崎	クリニックはまだ	ジェクト(株)	(株)ティーカラー
ケイ・アイ商事(株)	学校法人桐光学園	桜鳳興業(株)	東京恩寵教会執事会
三恵物産(株)	オール川崎ライオンズクラブ連絡協議会	サンエイ建設	ライオンズクラブ国際協会330-B地区5R-2Z
(一社)川崎市弘済会	おくせ医院	日本キリスト教団溝ノ口教会	日本キリスト教団新丸子教会
日本キリスト教団川崎教会教会学校	(有)福一	日本キリスト教団元住吉教会教会学校	学校法人捜真女学校
(社)生命保険協会神奈川県協会	昭栄塗装(株)	日本キリスト教団元住吉教会	川崎市総合教育センター
カリタス学園同窓会	川崎白百合ライオンズクラブ	(株)ニッケン石橋	宗教法人潮音寺
川崎南ライオンズクラブ	リサイクル募金きしゃぼん	チャリティーイベント募金箱	古本募金箱
募金箱	共同購入		

## ■財政支援にご協力をお願いします

24時間365日眠らぬ電話相談活動は、資金ボランティアからの会費、寄付により支えられています。相談員の養成、研修のほか、建物の維持管理、人件費、事務費、広報活動に年間約1600万円の資金が必要です。自前での資金確保(チャリティー事業による収益など)に努めているほか、川崎市からの補助金、多くの個人、法人・団体から寄付をいただいています。2018年4月に財政基盤の安定のため、「川崎いのちの電話支援会」が発足しました。どうぞ皆さまのご理解とご支援を心からお願いします。

川崎いのちの電話への寄付は寄付金税額控除など税制上の対象になります。

### ◇賛助会員 定期的に会費で寄付をいただける個人、法人・団体

(1)個人会員	年額	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円
(2)法人・団体会員	年額	10万円	5万円	3万円	1万円	

◇寄付 個人、法人・団体ともに金額、回数を定めない場合。相続や遺贈による寄付も控除対象となります。

◇振込先 (1)ゆうちょ銀行からの振り込み(払込取扱票にて) 口座番号:00240-2-36798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話  
(2)他銀行からの振り込み 銀行名:ゆうちょ銀行 店名:〇二九(ゼロニキュウ店) 預金科目:当座  
口座番号:0036798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話

お問い合わせ:川崎いのちの電話事務局(044-722-7121 平日10時~17時)

「2024年度/2023年度事業案内」を発行しました。

1年間の活動報告と、これから1年間の計画、予算の概要などを紹介しています。

### 社会福祉法人川崎いのちの電話

〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号

電話 044-722-7121 FAX 044-722-7122

ホームページ <https://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

発行日 2024年(令和6年)7月 発行人 金子 圭賢